

# 私の挑戦

244

## 相模原市 中里一貴さん

相模原市南区大沼で、50年続く「中里ぶどう園」の後継者として汗を流すのは中里一貴さん(26)。就農して2年。

父の裕之さん、祖父の正人さんと共に、質の高いブドウ作りに励んでいる。

幼いころから家業になじんで育ち、大学では植物生理学を専攻。卒業論文ではブドウの光応答について研究した。「社会を学んでこい」という父の勧めで一般企業に就



ブドウの摘粒をする一貴さん

職。興味のあった植物工場へ配属され、イチゴの工場栽培に携わった。しかし、就職後程なくして母親が急逝。人手の足りない中、悲しむ間もなく働く家族を見て就農を決意した。

「中里ぶどう園」では、8月上旬から「デラニーナ」などが続く。

「先代の経験を主軸に理論を照らし合わせ、より良い方法があれば変えていく。『何となくこの時期にこの作業』ではなく、なぜその作業が必要なのかを知ることが大切だ」と話す中里さん。土地を知り、蓄積した経験値を持つ父や祖父に加え、新しい理論や考え方を教えてくれる神奈川県普及指導員らは、心強い味方だ。

「まだまだ勉強の毎日。他市、他県の農家ともつながりを持って、切磋琢磨(せつさたくま)し合える仲間を増やしていけたら。作るからには最高の、おいしいブドウを食べてもらいたい」と意気込みを話した。

# 最高のブドウめざす

(相模原)